



献堂 1977年3月6日

1951年7月、香里中学校・高等学校が同志社と合併。同年9月17日に、香里学園以来の旧講堂で初めての礼拝が行われた。この講堂が、同志社創立100周年記念事業として新築されることになり、1976年7月2日に起工式、翌年3月6日に献堂式が行われ、現在の香真館（礼拝堂・講堂）が誕生した。命名は当時の阿南里士校長の提案によるもので、香里の「香」と、ヨハネ福音書14章6節「わたしは道であり、真理であり、いのちである」の「真」の二文字に由来する。講壇正面には、上部に四福音書記者と十字架を、下部に鳩、麦、魚などの聖書のモチーフを配したステンドグラスがあり、中央部には先述したヨハネ福音書の聖句を英語で刻んだ石板が収められている。

1階席、2階バルコニー席を合わせ約1300名が収容可能な建物で、入学式などの式典、日々の礼拝はもちろん、文化祭やスピーチコンテストなどの生徒の発表の場、また対外行事などにも使われている。2010年にはプロジェクトリーダーが、2012年には冷暖房設備が設置され、入試説明会や地域向けクリスマスセレブレーションなど、学外からのお客様をお迎えする際も、快適に過ごしていただけるようになった。

啓真館(同志社国際中学校・高等学校)

竣工日1997年8月



啓真館の代表的な建物、コミュニケーションセンターは、1997年8月に竣工した。

設計のコンセプトは、本校全体のシンボルになる施設として、「レンガタイルの既設校舎との継続性」と「開放的なアルミカーテンウォールによる対比性」とのバランスのとれた建物とすることだった。

この建物の空間は、本校の目指すコミュニケーション教育を実現するためにデザインされたので、あえて「メディアセンター」の名称を避けて名付けられた。

高天井と大空間の明るく開放的なこの施設の中では、コミュニケーション教育の基本的な流れ、つまり、図書・インターネット・視聴覚資料・人などのさまざまなメディアを活用して情報を収集し、それをもとに話し合い、その結果を発信するという一連のプロセスがすべてこの中だけで実現できるように、さまざまな工夫がなされている。当時からデスクトップではなくノート型コンピュータを導入するこだわりも、生徒間の話し合いを大切にしたことによる。生徒たちはこの施設を最大限利用して、「自ら学ぶ」この意味を理解していく。

コミュニケーション教育の根幹を担うこの建物は、休み時間にもここを利用する多くの生徒で賑わっている。